

令和3年度 第3次湖南省多文化共生推進プラン第1回策定委員会(会議録 要約)

- 日時 令和3年7月8日(木) 午後2時00分～4時00分
- 場所 市役所東庁舎 3階大会議室
- 出席委員 出席6名 欠席1名
- 事務局出席者 総務部長 総務部次長 市民生活局長
人権擁護課長 課長補佐 主査

開会 人権擁護課長 進行

・資料確認(進行より)

1. 市長あいさつ(総務部長代読)
2. 委員紹介(名簿順)
3. 協議事項等
 - (1)委員長・副委員長の選出(委員長、副委員長選出)
 - (2)市長からの諮問(代理で総務部長)
 - (3)①第3次湖南省多文化共生推進プラン策定について(事務局説明)
資料1 参考資料1-4
②湖南省における外国人住民の概況(事務局説明)
資料2
③現行計画の成果と課題について(事務局説明)
資料3
 - (4)策定に向けてのスケジュール(事務局説明)
資料4

○委員長

まずは、ただいまの事務局の説明に対しての質疑応答の時間を設けさせていただきたいと思います。
委員の皆さんでご質問がある方、よろしくお願いいたします。

○A委員

現行のプランを作られて、プラン通り進んでいますか。

○事務局

全体として進んではいますが、評価基準で×をつけた項目が2つありますので、課題はあると認識しています。

○委員長

予定通り進捗しているだろうということですか。事務局の認識は。

○事務局

進捗状況につきましては年度に2回、進捗調査をさせていただいております。その都度、各課に対し、ヒアリングや助言をさせていただいておりますが、進みにくい部分もありますので、もう少し時間をかけて、取組んでいく課題は、多々あるかと思えます。

○委員長

継続して実証をしていく項目も多々あるということは言うまでもないことですが、その他にご質問ございますか。

○副委員長

資料3ですが、ほとんどが目標値を実績値が超えているなど見ていた所ですが、4番の日本語ボランティア指導者数だけが目標値 60 人のところ、実績値は 15 人となっています。理由を教えてくださいなと思えます。

○事務局

今、ご指摘をいただいた日本語ボランティア指導者数ですが、新型コロナウイルス感染症の影響はありますが、令和2年度の目標値は、前期・後期・お昼の日本語教室を合わせて 60 名ぐらいと想定していました。この 15 名は、日本語教室夜の部・前期に限っての報告になっております。

○副委員長

基準値は 49 人という数値が出てるんですけども、これはコロナ前だからと理解させて頂いたらよろしいですか。

○事務局

はい。

○委員長

では私の方から質問があります。まず資料3なんですけれども、成果指標ということで4つ上がっていて、これはコミュニケーション支援の成果指標です。1番2番は、よく分かります。やはり、3番4番の部分が、とても重要な指標です。外国人の方が日本語を学ぶ。もしくは、外国人の方に日本語を教える。この2つの部分が、目標値よりかなり下回っている。コロナ禍の影響ですという事ですが、逆に言えば、コロナ禍でテレワークがだいぶ進んでおります。例えばZOOMによる日本語教室や日本語ボランティアの指導等、そういう取り組みはされておられましたか。

○事務局

ZOOMによる開催も実施しておりますが、お昼の部のマンツーマンの教室に使われているので、どうしても一桁の受講者数になります。

○委員長

2019年の冬から始まったパンデミックですので、まだ2年も経ってない状況の中で、ようやく学校等で、タブレットでいわゆるICTも、まだまだ進んでいない状況なので、一般の市民の方がオンラインで実施するのは難しいかもしれません。一方で、外国人側に、パソコンやスマートフォンであったり、そういうノウハウや機材がなかったり、また、日本語ボランティアの方はシニア層の方が多いですよ。やはりそこで、オンラインがなかなか慣れないとか、そういう課題が見えてきたりしていますか。

○事務局

今回の新型コロナウイルス感染症の影響がなくても、日本語教室は、ほぼボランティアの方にやっていただいております。ボランティアの方の高齢化も一つの課題ではあります。

○委員長

それぞれの成果目標の中に、社会情勢の変化がありますと、シニア層の方が中心となっているところを、逆に言えば、現役世代の方々でも関われる仕組みを作っていく事が、課題かなと思ったりします。また、南米の学習教室の修了者数ですが、大変たくさんおられて、この方々で232人の方がおられますが、日常的に、例えばポルトガル語やスペイン語等、簡単な通訳程度はできるよと言った方がどの程度おられるのでしょうか。

○事務局

南米語学学習教室は、国際協会主催の事業です。学校教育課で募集をかけていますが、232人のほとんどが、市内の小中学校に在籍している子どもたちです。国際協会や学校教育課と、各学校の連携を持っており、「南米語学学習教室に通い出してから子どもたちが明るくなりました」、「自分が外国人であることは恥ずかしいことではなく、通訳者として活動してます」と、喜ばしい声もありました。今後も南米語学学習教室を続けたいと思っております。

○委員長

この事業は通訳ということではなくて、子どもたちのアイデンティティの保障というところでも取り組まれているということですね。それから、外国人のボランティア登録者数っていうところ。そもそも目標値が10人。そして実績値は12人。この辺りの数字の低さというのは、やはり難しい課題があるのでしょうか。

○事務局

基準値の平成27年度に、目標値として10人にしましたが、人数は少ないですけども、0から12人になりました。一つの課題としましたら、やはり外国人のボランティアは、ほとんど定住化される外国人の方で、日本のことも好きで、日本語も頑張りたいという方々ですが、生活がかかっておりますので、ボランティア登録をしても、活動できないことや、登録まではいかないという方がおられます。また、仕方なく途中で断念する方もいます。

○委員長

この方々の活躍の場というのは、具体的にどういう場面をイメージして、このボランティアの育成をされて

おられましたか。

○事務局

多くは国際協会の各事業ですが、日本人の方も外国人の方も参加するように、各事業の計画段階から、外国人もボランティアに入っただいて、外国人目線でいろんな意見を出したりすることによって、より良い事業を作ることができます。

○委員長

つまり、外国人の参加促進や日本人と外国人の間を取り持つコーディネーター的な役割としての期待があったと。他の委員さんで聞きたいことが、出てきましたでしょうか。

○B委員

成果と課題の評価指標の中で、×が記載されており、できなかったものが2つあったんですが、（施策防災の担い手としての外国人市民の育成）その理由を教えてください。

○事務局

危機管理・防災課主催の外国人と日本人の合同訓練事業はこの4年間で一回もできませんでした。また、防災リーダーですが、28年度にブラジルの方1人が、防災リーダーとして認定されましたが、それ以降は、予算の問題であったり、連携、その方が対象の方にいなかったりですか、その辺りの事情があったようです。

○委員長

昨年の暮れに総務省が15年ぶりに多文化共生推進プランを改訂したんです。例えば国の示した施策内容ではICTも押し出してきていますし、もっと外国人市民が積極的に地域参加をしていく。もっと言えば、地域経済の担い手になりなさいという形で、あと留学生も、母国に帰らず外国人材として、日本の企業や自治体ですとか、日本にとどまって、日本の社会を良くしていくところに関わってくださいということで。15年前のプランは、外国人はサービスの受け側でした。ですが、今度はそれを提供する側にも回ってほしい、というようなことが盛り込まれてるんですね。そういった事については、盛り込んだほうがいいのかあれば当然ここでも議論していかないといけないので、事務局としてはどのような認識でしょうか。

○事務局

内容を見ておりますと新しい項目がたくさん増えております。冒頭説明しましたが、現在は法務省に、外国人受入環境整備交付金ができ、当市もその補助金を活用し、一元的外国人相談窓口を運営しておりますが、やはり新しいことを大きく進めていくとなりましたら、優先順位がある中で、予算の裏付けがないと難しい部分や、各課のマンパワーの部分もございます。本策定委員会が終わりましたら、各担当課へのヒアリングを予定しておりますので、国が今回示した施策の中で、小さな取り組みでも、できそうなことがないかも含めて検討できればと考えております。

○委員長

せっかく国がこういうプランを示されていますので、当然、湖南省に役立つものであればどんどん導入

していけばいいと思います。例えば、今回の策定プランの中で、地域の魅力発信、地域産業を活用した起業、地域資源を活用してインバウンド獲得などの取り組み、というふうに書いてあります。もちろんそういうところで、地域在住の外国人市民が関わっていただくというのは大変ありがたいことですが、なによりも、定住の外国人が多い地域というのは、そこでしっかりと仕事をして、生活ができて子どもを育てて、ということが、すなわち地域社会を支えているということになっていきます。そこに至っていない現状の中で、何かこう少し、一歩先に行きすぎてるのかなということもありますので、国の書いてあることも取り入れ方が、大事で、基本はしっかり押さえて、まずは定住外国人の安定ってところが大変重要であるってことを、前提に、議論を進めていければと思います。特に他にございますか。

○A委員

今回委員になり、湖南省の現在のプランを真剣に読みました。非常に細かなところまで、考えて、文章にされています。本当に細かいところまで考えてくれてるな。こういう想いです。そうしますと、あとはどういう風に取り組むんだ、誰がやるんだということですが、本人か、市役所か、先生かということが、具体的に明記されていません。そういうことで長浜では以前、若い人もみんな、一緒に投票しましたと、そういうようなことがありました。湖南省も外国人がたくさん住んでるから、外国人の人から見て、湖南省にいてよかったと、そういう風に思われるようなまちづくりを我々が力を合わせていくべきだと思うんですね。

○委員長

今の委員のご発言に対して事務局何かございますでしょうか。

○事務局

湖南省に、外国人はたくさん住んでいますが、定住傾向の外国人が多い地域とそうでない地域があり、差が大きく、外国人は住民として、地域参加についても非常に少ない。今、A委員がおっしゃったように、もう少し明確に、わかりやすく、実効性があるものにしてほしいのではないかと考えました。

○委員長

A委員のおっしゃったことは、私も全く同感です。どうしてもプランとは、こういう形になってしまう部分がありますが、あれもこれも書いて、しっかりやっていきましょう、という意思表示ですね。これを課題解決に繋げていくためには、誰がどんな方法で、この課題にアプローチをしていくのか。その方法でいくと、どれくらいの財源、人的資源が必要で、日本人の理解も必要だっていう、一つ一つの施策に関しては、そういうことを考えていくわけですね。これについては、この後、各課の方にヒアリングをされるので結果を待ちたいと思っていますけれど、絵に描いた餅で終わってはいけないというのは全くおっしゃる通りかなと思います。

○C委員

教育分野で考えた時に、なかなか数字がでないところは多いのですが、印象的だったのはD委員が（自己紹介で）おっしゃった事です。小さいときに、近くにブラジルの人が出て、すごく仲良くなって、そこで国際文化等に目覚めて今されてる活動に繋がったというお話、とても素敵だなと思っております。そういう人たちが、たくさん増えていくことは、とても大事な事だと思いますので、現行プランの理想としていることをされているんだなと感じましたし、市民さんにもどれだけ身近な事として、多文化共生を考えてもらえ

るかという部分を、どう呼びかけていくのかなと思います。タイトルを取ってみても、湖南省多文化共生推進プラン「With KONAN Plan II」、一般の方々には、何のことか、分かりにくかったりしますし、どれだけ一般の方に、自分事として、捉えてもらえるような働きかけをするのか、そういうことも大事なのではないかと思います。私も自分の生徒たちを見ていて、D委員がおっしゃったような思いでいてくださる方がたくさんおられます。このように湖南省ならではの方が出て来られているので、そういった目に見えない成果も、実はたくさんあるんだと思います。

○委員長

ありがとうございます。本当にD委員のように、子どもの時に会った外国人の友達が仲良しで大好きになったというプロセスがあって、外国人市民と接することができるっていうのが一番いい自然な形だと思うんですが。でも残念ながら、そうではない方がたくさんおられる訳ですね。困りごとから入って、外国人市民と会おう方が大変多い。その中で、これは最後の質問になるんですが、少しうがった見方ですが、湖南省市内の中で棲み分けが進んでるなど。水戸地区にはたくさんの外国人が集まってきている。外国人集住地域です。逆にほとんど外国人の住んでいない地域もある。その差は、これからの多文化共生の施策を進めていく上での課題になると思います。このあたりは、地域によって、これだけ違うと当然日本人住民の環境も違ってると思うんですけど、その点どうですか。要は、地域によって打つ施策を変えていく必要があるのか、ないのかというところの質問です。

○事務局

現行プランの冊子9ページを見て頂きたい。棲み分けがまったくくないと言ったら嘘になりますが、10代ぐらい、ポルトガル語やスペイン語より日本語の方が強いという外国人はどちらかというと、同化傾向にあるかなと少し思ったりします。宮の森では、積極的に住民のブラジル人、ペルー人と一緒に料理を通じて、ブラジルの意味、日本人の意味、歴史を踏まえて、楽しく交流会を2年3年に亘って実施しています。排斥というものは湖南省にはないかなと思います。

○委員長

10人に1人は外国人という町の風景ですが、日常的に外国人に出会うんです。それが大体5%になると、たまにしか出会わない。2%位が全国平均ですけど、それくらいだと、ほとんど出会わない。それだけ生活の中で、出会う回数が多いか、少ないかによって、良い場合は友情が芽生える、悪い場合は偏見が助長される。ということになってしまうので、ここは少し、地域によって、メリハリをつけたプランがあってもいいのかなと思います。それからもう1つ、これから意見を皆さんに出していただくんですが、湖南省全体で6%という外国人比率について、これからどんどん日本人は少子高齢化で、人口減っていくし、高齢化が進んでいくわけですよね。その時に、例えば高齢化社会を、若い世帯の日本人だけでは到底支えられないわけですね。幸い、湖南省には定住されている外国人が多いので、この人たちにも支えてもらわないと、成り立っていかないんだっていう、そういう社会になってしまっているっていうところの認識をいただいた上で、外国人市民ともっと向き合っていく必要があるんじゃないかなという風に思います。それと、最後になりますが、ベトナム人がどんどん増えている。これは湖南省だけではなく、全国各地で増えてきています。いわゆる技能実習生の人達です。特定技能は、在留資格が創設されすぐコロナの状況になってしまったので、ほとんど来日されていないんです。現在お住まいの方は、技能実習生から特定技能に資格が移った方がほとんどです。技能実習制度には、いろんな問題があります。なかなか地域でその実情がわからない。

しかしながら、もうすでに 17%近く、これ全員ではないと思いますが、かなりの比率の方が住んでおられる。その人たちに対してどういうアプローチを行政として市民としてできるのか、又はできないのか。当然これは企業が基本でやっていくしかないわけですから、この辺りの問題もあるということで、この4年の間に、コロナウイルス感染症もあって、技能実習生も増えて、どんどん地域によって外国人の集住が進んでる地域と、そうでない地域とで差が出来てきた。いわゆる格差や分断が広がっているこの時代に、私たちがどんなプランを作るのかっていうことを、ぜひご検討いただきたいなと思います。皆さんにアンケートを、事前に答えていただいているかと思いますが。これから現行プランを継承したりとか、新たに付け加えたりっていうことをするんですね。このプランの良かったところ、改善するところ、短くですね、特に、重要度や緊急性が高いもの。どういう問題があるのか、どこの分野なのかを今の認識で結構ですのでお話をいただきたいなと思います。副委員長を最後にして、C委員からプランを作るにあたって、ここに力を入れたいみたいなことがありましたら、教えて下さい。

○C委員

外国籍の方が多いと聞くと、どうしても教育現場で日本語支援が必要な子が多いとか、そういったところを見がちですけど、国際交流できるチャンスがたくさんあるというプラスの捉え方もあると思います。プラスの捉え方で、いろんな交流を促進していけるような、プランになればいいのかなというのは、常々思っています。前のプランでも「キーパーソン」について書かれていますし、実際に日系の方を始めいらっしゃると思うので、そういう方々のお力を借りて、さきほどの防災訓練の話も、キーパーソンを窓口にして開催していくことで、最初は参加者が少ないかもしれませんが、少しずつ増えていくと思います。今は回数で書かれていますけど、参加者数に変えてみることで最初は0だったのが、キーパーソンが声をかけることで、2人〜3人と増えてきても、それはそれで、広がっていくのではないかと思います。あとは、他の地域と比べても湖南省は長年外国籍児童生徒の支援等、いろんな取り組みをされてるので、子どもたちをはじめ、様々な成果が出てきていますので、若者たちに全面的に前に出てもらって、一緒に考えていって一緒に作っていけるような、そういう形になればいいなと思っております。

○委員長

確かに交流する機会が増えれば増えるほど、相互理解ができ上がってくると思うので、そのキーパーソンとか、そういう場づくりは重要だと思います。

○B委員

私の娘が去年、結婚しました。26歳です。日本語教室の第一期生でした。湖南省が好きで、たくさんの方にお世話になって今があります。こういったプランを行政の方々が考えて、作って、実行されてるっていうことを、もっとたくさんの方々に知って欲しいです。6%の方々のために、こうして皆さん時間を使っているのはありがたいなと思うのと、もっとたくさんの方に知っていただきたい。もっとたくさんの方々に知っていただくには、企業の連携は絶対大事なので、先ほどの、他の防災訓練とか手を挙げます。よかったら、私たちの取引してる会社も一緒にできたりしますので、ぜひ言ってください。また何かお役に立てる事があったら、是非ともよろしく願います。見える化していった外国の方に伝えられるようにできたら、すごく素晴らしいのかなと。

○委員長

外国人市民の方でも、こういうことをやってること知らない人もたくさんおられます。まずそれを知らせるっていう事も大事かと思います。知らせて情報が伝わると、多分反応もまた変わってくるので、より実りのあるプランになるかもしれません。

○A委員

外国の方が増えてる、増えてきたというのは、やはり企業の働き手としてです。その担い手として、増えてきているというのが現実ではないのかと思います。やはり企業が声を出して欲しいです。そういうことで、日本の将来を考えても、やはり外国から来て下さった人たちの立場を認め合う。そして、働き手としてだけではなくて、やはり人として尊敬を持って取り組んでいく。そういう事が大事だと思います。そういう方向で進んでいただきたいと思います。

○委員長

A委員、B委員いずれも企業を巻き込みながら、このプランを作っていく必要があるのではないかということですね。ですので、例えば技能実習生を雇用している企業さんに、例えば「うちなる国際化フォーラム」に来ていただいて今こういう状況ですよと情報提供頂くなど大事かも知れません。ただ、技能実習制度は、非常に評判の悪い制度でありまして、人身売買であると指摘されるくらいに、人権が守られてない。一方で、全くそんな事はなくて、しっかりと働いているの技能実習生もたくさんいるんですが、そもそもベトナムから出国する時に 100 万円ぐらいのお金を借りてというこの部分に大きな制度のねじれがあります。ですので、国内の技能実習生を雇用してる企業さんが、すべて悪だということは決してなくて、そもそも、制度自体に問題があるんだということですけども、ぜひ何かの機会で、そういうところのお話を聞ければなどと思います。

○D委員

B委員や事務局にお聞きしたいんですけど、湖南省の庁舎には、通訳さんも複数いらっしゃいますし、昔ほど困ってることはないんじゃないのかなと思っています。多分 10 年前、20 年前の方が、外国人の人が困ったときに、生活支援の部分で困っておられて、今は逆に言い方は間違っているかもしれないですけど行き届いているような気がします。日本語を使わずとも、問題解決を市役所でしてもらるっていうそんなイメージですが、そのあたりどうなんでしょうか。

○B委員

私は 17 歳から湖南省にいますけど、いろんな事を、ルートを教えていただいて、それを、他の人たちに伝えていっているんで、そういう繋がりが、どんどん増えていってるような感じがします。そういった中で、行政のサービス、サポートが届いているような感じがしますが、一方で、新しくここに住居を構える人たちは、市の事を分かっていないので、それを教える必要は絶対ありますね。長く住んでる人たちはどこに訪ねていけばいいのかわかっているんですけど。新型コロナウイルス感染症前だと、南米の人たちっていうのは、8割がずっと日本に住むんだという人たち。新型コロナウイルス感染症禍になってからは、9割近くがこのまま日本に住むんだという風になっている気がします。だから、帰らないという人たちが多くて、あと、私の娘も水戸小学校、日枝中学校だったんですけど、私たち仕事を提供するんですけど、その中で、水戸小学校はやっぱり外国人さんから人気ですね。教育の取り組みをたくさんされておられるので、たくさんの人たちが水戸小学校に入りたいという人たちが、やっぱり紹介紹介であるのかなと思います。

○OD委員

湖南省は外国籍の方が、自身の母語を使わなくても暮らせる町という認識なんです。どうなんですか。

○事務局

外国人の定住傾向がある中、日本に長く住まわれる方は、大体の制度は分かるものの、日本語力はあまり高くない方が多いです。また、言葉だけで、どうしても日本の制度はピンとこないのも単なる通訳がいたらいいわけではないです。また、外国人の悩みも複雑化しています。例えば外国人同士の国際結婚が最近増えてきています。育った国が違えば、支援も変わりますので、通訳者がいたら、外国人の問題はなくなるわけではないかなと思います。

○OD委員

そもそもブラジル人の挨拶を9割近くの方は知らないと思います。私は、ブラジルやペルーの人とお会いする際は最初の相手の母語で挨拶するようにしています。そうすると距離が近くなる気がするんですね。この多文化共生推進プランの中に、「挨拶しようプラン」みたいなものがあつたら、費用もかからず、スムーズな形で交流が生まれるんじゃないかな。定住されている人でも、ブラジル人の人が、日本人の方から挨拶されるっていう事が、ほぼないと思うんです。僕ら日本人が、中国に行った時に、中国の方から日本語でこんにちはって言われると、凄く嬉しく感じるように、(母語で挨拶すると)凄く喜んでもらえるので、そういう事が当たり前になれば相談等も、もっとしやすくなるのではないかな。サービスが行き届いてるので、日本語を使わなくていいから、逆に分断が生まれているんじゃないかなっていうのが私の意見です。日本語を使わず、自分の母語である程度クリアすると、日本語を勉強しなくても、子どもが喋れたりするので自分も日本語を勉強せずに、そのまま過ごしてしまい、何年経っても日本語を喋れないと。でしたら、歩み寄ってもらうというところも必要なんじゃないでしょうか。

○委員長

おっしゃる通りですね。やっぱり集住地域に行けば行くほど、例えばブラジル人の集住地域ですと、ポルトガル語が通じて、ブラジル人学校もあって、日本語が話せなくても不自由しないんですね。という中で、隣町の日本人が多いコミュニティとの間でトラブルが起きるというような話ですね。ですので、言葉の壁というのは、外国人が日本語を学びましょうという話だけではなくて、日本人が、地域で住んでる外国人の言語・文化を学ぶ等、両方でなければ駄目なわけです。どこかで盛り込めたらなと思います。それから、1990年に日系人が日本に来られた時に、もっと大変だったと思います。30年間でここまで来たことだと思うんですが、一方で、これから先はこれでいいのかっていう問題もあるのかなと思います。最後に副委員長お願いします。

○副委員長

今回初めてこのプランの策定委員をさせていただきましたが、最初に自分が、多文化共生という言葉で、思っていたことよりも、C委員がご発言されましたように、どうしても理解しましょう、尊重しましょうという形になっているんですけど、6%の外国籍の方が、住んでいらっしゃるということ、プラスに捉えられるような。たくさんの方が居てくださって良かったねっていうふうに感じられるようになれば良い。そういう風に捉えら

れるような、プラン作りができるといいのかなと思います。ただ、私は菩提寺北小学校区在住です。外国人比率が低く、日常の生活の中では、ほとんどお出会いする機会はありません。ただ、サンヒルズ甲西や水戸地域の方に行くと、外国籍の方がいらっやって、こんなに小さな湖南省の中でも、違うんだなということが、日常生活の中でも実感します。せっかくここに住んでるんだから、いい面をとろうよ、一緒に楽しもうよってするにはどうすればいいのかと思いました。もう1つは、ボランティアの登録者が凄く少ない件ですが、私は湖南省のボランティア連絡協議会会長で、今は 85 くらいの団体が登録してくださってボランティアとして千人ほどの方が活動してくださっているんですけど、そう言われてみれば、外国籍の方はあまりお見かけしない。今は難しいかもしれないけれど、コロナが収束した段階で、声かけだけでもまず、させて頂く機会があればと思います。私たちのやっているようなボランティア、養護施設に行くとか、そういう活動にも、以上です。

○委員長

D委員のご意見に近い話ですね。国籍とか民族とか文化に着目して、その人たちと共生しようというのが、多文化共生です。が、それ以外にもいろんなものが、この社会には含まれているわけです。男性だったり女性だったり、宗教だったり。多文化共生というよりも、多分私たちがめざさなきゃいけないものは多様性をいかに地域の力に出来るか、そういう社会をつくるということだと思います。どうしても外国人だけに特化して拾い上げるので不自然な形になっちゃうんですけども。一人一人みんな違うように、ごく当たり前に多様性を認められるような、関係性とか社会を作っていく。そういう意味では、日本の学校教育の中では多様性をあまりうまく教えられてないなと思います。先生が、整列しろと言って児童が整列するとか、割と集団行動が多いですし、その辺りが、海外とはかなり違うのかなと。個人個人の特性みたいなものを大事にしなが、たまたま目の前の人外国人だったと、いうのが多分一番自然な形なんだろうなと思うんです。そういう意味で、昨年に国が改訂した多文化共生推進プランで、すべての児童生徒を対象とした多文化共生の考え方に基づく教育の推進という項目があります。要は、多文化共生をしっかりと学ばなければならないという様な事が書かれています。これをやってしまうと、かつて、僕らも経験したんですが、人権教育の失敗をすと思うんです。例えば、部落問題とか学んだと思うんですが、特に同和教育を受けた場合は、部落の人たちを差別しちゃいけませんから入っていくので、逆に逆差別が生じる。ですので、この間がすごく難しいんですが、やっぱりこう、しなやかに、自然な感じで、お互いの文化を認め合っていくとか、関係性を作っていく、仲良しになっていく、そういうことができるような環境をどう作るかという話だと思います。まだまだ、ご意見があると思いますが、今日は 1 回目ということなので、皆さんがお持ちの問題意識や意見をプレスト的に出していただきました。これから、今日のご意見を踏まえた上で、プランのたたき台が、事務局から上がってくると思いますが、とりあえずここで本日は事務局にお返いたします。

○事務局

次回開催日の調整・連絡

●閉会